

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院リハビリテーション部では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この研究では、亡くなられた方の診療情報も、貴重な情報として、研究対象として扱わせていただきます。この案内をお読みになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自分やご家族等の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2020年10月1日 ～ 2026年3月31日の間に、血液疾患のために虎の門病院血液内科に入院・通院し、同種造血幹細胞移植を受けられた方

【研究課題名】

同種造血幹細胞移植における Tissue loss syndromes の予後予測因子の解析

【研究の目的・背景】

《目的》

同種造血幹細胞移植における Tissue loss syndromes の予後予測因子を明らかにすること

《研究に至る背景》

同種造血幹細胞移植（以下、移植）は、白血病やリンパ腫などの血液疾患の根治を目指す治療です。近年、治療診断技術の発展や高齢社会を背景として、高齢の患者さんへの移植も増えています。しかし、高齢者や虚弱な患者さんの移植治療は生存率に課題があり、治療後も日常生活の制限や認知精神心理面の問題が顕在化する場合があります。したがって、移植治療前から体力や栄養、認知精神心理面を包括的に考慮する必要性が高まっています。

フレイルやサルコペニアは高齢者や多くの疾患で注目される心身機能の不良な状態です。これらは生存率や治療副作用を悪化させることが分かっています。さらに、これらに加えカヘキシア（慢性炎症の影響を受けた低栄養状態）や Malnutrition（低栄養状態）を包含して、Tissue Loss Syndromes（以下、TLS）という新しい概念が提唱されました。これは体構成成分の変化を伴う病態として理解されるようになり、重複して有することで重症度が高いことが考えられます。したがって、これらの因子と生存の関係性を検討する研究が望まれています。

しかし、移植患者さんにおいて TLS の併存または独立した影響が分かっていません。本研究の目的は TLS それぞれの関係性と TLS と移植後生存率との関係を明らかにすることです。本研究結果が明らかとなることで、TLS それぞれの予防または改善の一助となると考えます。

【研究期間】

2026年6月18日 ～ 2030年12月31日

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院リハビリテーション部において研究終了後5年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【診療情報を虎の門病院外へ提供する場合】

診療情報を虎の門病院外へ提供する予定はございません。

【利用する診療情報】

診療情報： 検査データ、診療録、CTデータ、薬歴、看護記録など

【虎の門病院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：虎の門病院 リハビリテーション部・中道健一

研究機関の長：院長 門脇 孝

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族等の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族等の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2026年12月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 リハビリテーション部・市川雄大

電話 03-3588-1111(代表)